

進路選択により、生徒が明るい未来を切り拓くために

練馬区立開進第二中学校
校長 牧野 英一

間もなく6月になります。3年生は、これから進路選択の時期になります。一方で今後、様々な情報や憶測が流れ、生徒にとっては精神的にも落ち着かない時期になります。

改めて、生徒が進路選択により明るい未来を切り拓くため、正しい情報に基づき各家庭で十分に相談をして進路を決定することが重要となります。

今までの教員としての経験と、保護者として子供の進路選択に寄り添った経験から、以下の点を参考にいただければ幸いです。

1 高等学校や企業に行き直接話を聞き、正しい情報を得てください。

毎年、進路決定の時期になると、様々な情報や憶測が流れます。進路決定に当たって、正式な手続きを経て子供と保護者が高等学校や企業に直接足を運び、現場の先生や担当者の説明を受けたり、相談をしたりすることが最良です。必要な場合は、担任や学年の教員を通して、先生や担当者への確認を依頼してください。

当然、子供の視点と保護者の視点は異なります。そこで何よりも大切なことは、見学、体験、相談等が終了した後に、生徒と保護者の方で十分に意見交換をすることです。

2 第一志望・第二志望の高等学校や企業を絞り込んでください。

見学、体験、相談等による正しい情報に基づいて、ご家族で十分な話し合いを行い、段階的に第一志望の高等学校や企業を絞り込んでいきます。

高等学校であれば、まずは、公立高校を志望するのか、私立高校を志望するのかを決定するとよいと思います。次に、子供が高校でやりたいこと、将来の目標、現状などを考えて、志望校を具体的に決定します。この際大切なことは、志望校を選択する際に、保護者の方などの助言や支援に基づき、第二志望まで決定するとよいと思います。

3 子供の様子を見て、伝わる時に話をすると効果的です。

これからの時期は、子供と適度な距離感を保つことも大切です。成長期の子供の行動を保護者の目線で見ていると、ついつい感情的になり頭ごなしに叱りつけたくなります。

ですが、伝えたいときに一方的に伝えるのではなく、伝わる時に話をすると効果的です。いつか伝わる時かを考える目安として、子供が話しかけてきたときがチャンスです。まずは、子供の話を無条件で受け止め、その後ゆっくりと簡潔に自分の話を伝えると効果的です。時には、メールなどで思いや願いを伝えることも有効です。子供にとって保護者は、最大の理解者であり、応援者です。進路選択を通して、家族の絆を確かめ合ってください。